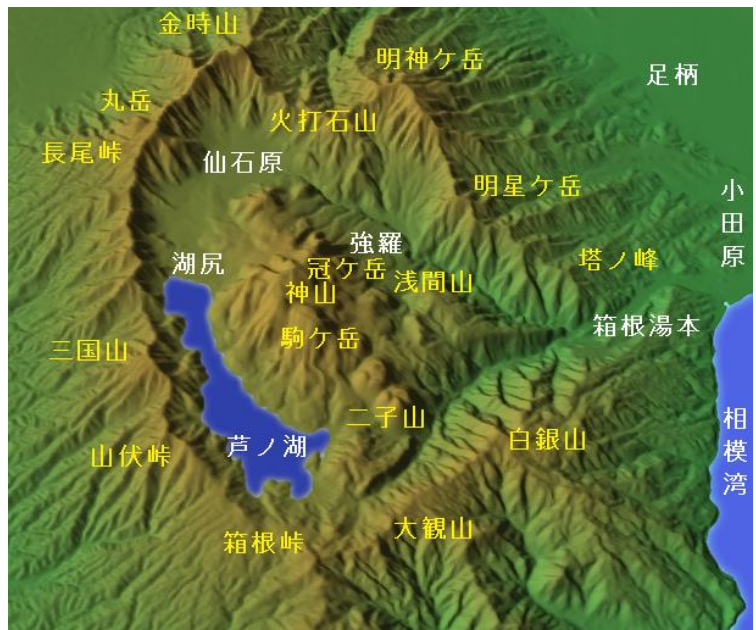


箱根外輪山ハイキングシリーズ第2回「明星ヶ岳～塔ノ峰」

(報告) 大塚 忠彦

◎日程 2015年10月5日(月)曇り ◎参加者 4会員

箱根は太古には標高3000m近くに達するコニーデ型火山を形成していたが、その後何回も噴火を繰り返した結果、火山の中心部が空洞化して大陥没し大きなカルデラが出来た。陥没した火山の周囲に取り残された標高1000m前後の山々の連なりが「箱根古期外輪山」と呼ばれるもので、塔ノ峰、明星ヶ岳、明神ヶ岳、丸岳、三国山、大観山、白銀山などを結ぶ稜線である。陥没した火口の中に残ったのが駒ヶ岳、神山、冠ヶ岳、二子山などの「中央火口丘」である。右の図で、巾着型の袋が箱根古期外輪山、芦ノ湖東



岸の山塊が中央火口丘である。(中央火口丘の神山・冠ヶ岳は厳冬期には雪山となり、短いアプローチで楽しめる近場の結構な雪山の穴場コースとなる。来年2月に本シリーズの最終回第5回として計画しているのでお楽しみ頂きたい。PRの序にもう一件。芦ノ湖の西岸に連なる外輪山の南半分のハイキングは、第4回として来る12月29日に箱根町から山伏峠・三国山を經由して深良水門、湖尻まで歩くコースを予定しているので、こちらにもご参加頂きたい)。

さて、今年新規に計画した箱根外輪山ハイキングシリーズはこの古期外輪山を一気通貫でグルリと一周するのが本来ではあるが、結構日にちも掛かり途中で泊まり場も無く、また、南東部などは登山道も無く深いヤブ漕ぎとなるので、“美味しい”場所を別々に廻って繋ぐだけの安直ハイキングとした。

その第1回目は6月に山北から矢倉岳、足柄峠を經由してカルデラ北端の金時山に登った。今回はカルデラ巾着の東稜線を南下して塔ノ峰から箱根湯本に下るコースであるが、明神ヶ岳は今年の秋に湘南ハイキングシリーズで登ったので今回は箱根宮城野から明星ヶ岳に登り、巾着を伝って塔ノ峰経由で巾着の出口である箱根湯本に下山した。

明星ヶ岳は、小田原方面から見ると宵の明星がこの山に掛かってひととき大きく見えることからの命名だそうだが、今は山腹で行われる「箱根大文字焼」が有名で、箱根の夏を彩る風物詩となっている。

登山口「宮城野橋」から別荘地帯の山道を登って行った。道の傍に瀟洒な介護付老人ホームが建っていて、「いずれ我々にも必要になるので、チョット見学でもして行くか。なんなら入所を予約しておくのも悪くないネ。毎日温泉にも入れるしネ・・・」云々・・・。



(明星ヶ岳の大文字)

結構キツイ山坂をハアハア・ヒイヒイと登って行って大文字焼の火入れ場所に着いた。そこだけ樹林が切り拓かれて“大”の字が浮き出ている。誰かが曰く「京都の大文字山では学生がいたずらして“大”の右上に“・”を打ったので犬になってしまったとか」。誰かが続けて曰く、「それでは、ここ明星ヶ岳では“大”の股下に点を打つと何になるかいナ?!」

明星ヶ岳は、防火帯が切り拓かれている開けた尾根路であるが、樹林のため展望が無い。径を外れた樹林の奥に朽ち果てた鳥居と苔むした何かの石碑・仏像があり、往時の箱根往還を偲ばせるが、薄暮に独りで出くわすとチョット怖い感じがする場所でもあった。

明星ヶ岳から塔の峰まで笹藪の切り通しの中を歩き、塔の峰に下った。ここには小田原北条氏の出城があったそうで、なるほど出城が造れるほどの平坦地があった。

ここからは急坂を下って途中の山腹にある阿弥陀寺に詣でた。山寺ではあったが、インドのアショカ王が分骨した仏舎利があるという浄土宗の名刹だそうで、昔は本堂も茅葺であったそう。なるほど、いかにも由緒ありそうで幽邃な佇まいの古刹であった。この寺はまた、悲劇の皇女和宮の香華院（位牌をまつる寺）でもあり、住職が琵琶の演奏で和宮の一生を弾き語ることでも有名だそう。



(山中の阿弥陀寺。かつての茅葺の本堂)

阿弥陀寺からは転げ落ちそうな急な道路を箱根湯本まで歩き、駅前の蕎麦屋で軽くイッパイやって解散となった。

[引用出典＝阿弥陀寺 HP]

<記録> 9:30 宮城野橋、11:30～12:00 明星ヶ岳、13:50 塔ノ峰、15:00 箱根湯本